

ユニオングラウト施工要領書

工程	施工要領
下地処理	<p>①コンクリート表面にレイトンス、汚れ、油分などがあれば全て取り除き、水洗い・清掃等を行って下さい。</p> <p>②下地コンクリート面は水打ちを行い湿潤状態とし、余分な水分は除去して下さい。</p>
型枠準備	<p>①型枠は、ユニオングラウトの打設圧力に耐えられる構造とし、型枠の隙間からユニオングラウトが漏れないようにシールを施して下さい。</p>
練り混ぜ	<p>①練り混ぜ水量は所定の範囲（4.0～4.8ℓ/袋）で、Jロートの試験結果が規定値以内になるように練り混ぜて下さい。</p> <p>②練り上がり温度が10～35℃以内になるように混練水・材料の温度管理を行って下さい。</p> <p>③1回の練り混ぜ量は、20分以内に使い切る量として下さい。</p> <p>④混練時間は1分30秒から2分間とし、3分以上の混練はしないで下さい。</p> <p>※異常膨張の恐れがあるため、ハンドミキサーの羽根や混練容器にアルミ製のものは使用しないで下さい。</p>
打設・充填	<p>①打設方法は流し込み、ポンプによる圧入があります。</p> <p>②流し込みは片側から連続打設して反対側からユニオングラウトがあふれ出るまで行うようにして下さい。</p> <p>③ポンプによる打設は、最上部に空気抜きを設け、上面まで充填して下さい。</p> <p>④打設終了後、表面の仕上げはユニオングラウトが締まってきたところを見計らい、コテ押さえをして仕上げして下さい。</p>
養生	<p>①通風や直射日光は避け、必要に応じて屋内では開口部の封鎖、屋外ではシート掛け等の養生を行って、急激な乾燥を防止して下さい。</p> <p>②施工後、降雨・降雪のおそれがある時はシート掛け等の養生を行って下さい。</p> <p>※急激な乾燥は硬化不良・ひび割れの原因になりますので、打設後1週間程度は打設面を湿潤状態に保つように養生マット等で養生して下さい。</p>